

酒吞童子山地域の植物

山頂帯・尾根



ブナの実（7月中旬）



山頂帯のブナ林（8月下旬）



ブナの老樹に着生するヤシャビシャク（8月中旬）



早春に咲くシキミの花（3月下旬）



初夏に咲くハイノキの花（5月中旬）



中津江村側の尾根に生えるモミ（5月中旬）



モミの葉（8月下旬）

酒呑童子山一帯には今回の調査で、シダ植物と種子植物を合わせて668種類生育していることが分かりました。山頂付近にはブナ林が発達し、中腹の岩場の尾根一帯にはツガ林やモミ林がみられます。山頂帯や尾根にはおよそ120種類の植物が群落をつくって生育しています。標高では600～1180mの山岳地帯です。

ブナ林には、ブナが^{ゆうせんしゅ}優占種となって、コハウチワカエデやオオカメノキ、ツクシシャクナゲ、アラゲミツバツツジなどが林をつくり、シコクママコナやツクバキンモウソウなどが登山路沿いや林縁に花を咲かせます。尾根のツガ林やモミ林には、クリスマス・ツリーに似たツガ、モミの針葉樹のほか、ハリモミもみられ、シキミやハイノキなどが一緒になって群落をつくっています。



山頂岩場に咲くツクシシャクナゲ（4月下旬）



ブナ林で赤い実が熟れるオオカメノキ（8月中旬）



山頂の林縁に咲くシコクママコナ（8月下旬）



針葉樹のツガ（7月中旬）



九州では稀なツクバキンモウソウ（7月中旬）



稀にみられるハリモミ（5月中旬）



岩場に咲くアラゲミツバツツジ（5月中旬）